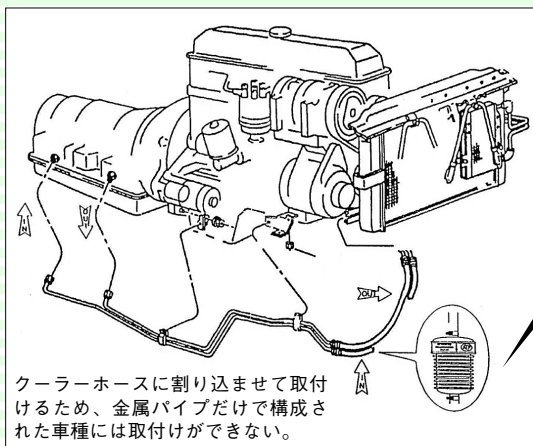


## ATのトータルメンテナンス

付加価値アイテムを活用した最新ATF交換サービス



◀ ATF フィルタ本体は米国製。内蔵したマグネットにはATFの活性化を促すイオン効果も持ち合わせているという。



### サービス価値を高める新アイテム

1980年代以降、オートマチックトランスミッション(A/T)搭載車の普及に伴って需要が拡大してきた「A/Tフルード(ATF)交換」は、古いATFを抜取った分だけ新しいATFを注入する「希釈交換」と呼ばれる作業方法が定着している。

A/Tは構造的に金属摩耗粉やクラッチ摩耗粉といった異物がATFに混入しやすく、それがATFを劣化させる要因になっている。周知のとおり希釈交換ではATFに混入する異物の濃度を下げることができても、100%除去することは難しい。裏を返すと、異物が完全除去できるATF交換が実施できれば、サービス価値を一段と高めることが可能になる。

上の写真で紹介した「ATFフィルタ」は、ろ過性能が3ミクロンのフィルタおよび強力マグネットを内蔵し、ATFのクーラーラインの途中に装着することにより、ATFに混入した鉄粉をはじめ銅やアルミといった非鉄金属、クラッチ摩耗粉など微粒子レベルの異物までキャッチするのが特徴だ。

### 攻めの姿勢でニーズを掘り起こす！

国産車の一般的なA/Tのオイルパンには、鉄粉を吸着するマグネットや金網タイプのフィルタが装着されているが、これらが除去できない異物をATFフィルタがキャッチするので、単なるATF交換というよりはA/T本体の消耗とATFの劣化を予防することに重点を置いた「メンテナンス」の色合いが強く、管理意識の高いエンドユーザーを中心にサービス価値の高さを提案できそうだ。

今やATF交換は整備工場だけでなくガソリンスタンドやカー用品店でもサービスを実施しているが、メンテナンスの技量が要求されるこのようなサービスなら、整備工場に適したメニューであると同時に差別化も図りやすいといえる。

すでにATFフィルタは複数の欧米自動車メーカーが純正採用し、近い将来、国産車にも標準装備されると目されている。そうなれば、先々には「ATF+ATFフィルタのセット交換」が一般化するので、まだ同サービスに取組む事業場が少なく差別化も図りやすい今が、攻めの姿勢でニーズを掘り起こせる最後の機会なのかもしれない。